

KAGAWA アンバサダーからのお願い

～依田 順子さん～

2015年10月

私は中学2年生のときに高松市に引っ越してきました。
高松市立桜町中学校の第1日目は、転校生を見ようと、窓という窓に男子生徒の顔が並んで、とても恥ずかしかつたのを憶えています。

私の生まれた徳島県三好郡三好町（現在は、東みよし町）は、静かな田舎町でしたから、高松市は大都会でした。

信号機のある交差点を一人で渡ったときには足がガタガタ震えました。
桜町中学校での担任、小林正六先生との出会いは、私に絵を描くことの喜びを教えてくださいましたし、将来、画家になると決意をしたのもこの頃のことでした。

高松第一高等学校では、美術部の一員として、実によく描きました。
栗林公園は元より、現在、瀬戸内国際芸術祭で話題の女木島、男木島でもスケッチブックを広げ、直島と小豆島では、合宿をしたこともありました。
女木島の強烈な太陽と天を突くようなごっついひまわりの花は、後々の私のエネルギーの源となっているのです。

さて、武蔵野美術大学での私は、そうそうたる教授陣に囲まれて、将来の画家を目指して充実した日々を過ごしました。卒業後、ニューヨークへ出発する直前に恩師、森芳雄教授のご自宅にお邪魔しました。教授は黙ったままで、一点の美しい作品を手渡してくださいました。

1969年1月、私は、新鮮なアメリカン アートへの憧れと、主人、依田寿久との結婚のためニューヨークに渡りました。

1ドルが360円、海外に持ち出せるお金が500ドル以内の時代でした。
ニューヨークに着いて一週間目から、ニュー スクール フォー ソーシャル リサーチで英語のクラスを取り、同時にセントラルパーク脇の富豪のアパートのハウスキーパー（お手伝いさん）、日本語補習校の先生、そして、永住権申請のために日本人経営のギフトショップで働きました。
渡米4年目にして永住権を取得、ギフトショップをやめて、長男、依田洋一朗出産のため香川に一時帰国しました。

洋一朗は、高松市内の中央公園にほど近い病院で生まれ、生後3ヶ月でニューヨークに渡りました。家事と子育てと制作の三本立ては、目まぐるしいものがあり、忙しい中でも制作を続行するために、この時期作品を極力小さくしました。1.5cmx1.5cm、手のひらに乗っかるほどの小品に全神経を集中しての制作でした。



1978年には、創立1954年のニューヨークの有名ギャラリー、ザブリスキー ギャラリーの目に留まり、同ギャラリーで開かれた新人展に出品、反響を呼びました。ニューヨークに渡って9年目のことでした。

以後、ザブリスキー ギャラリーのアーティストとして活動し、1984年から85年にはパリのギャラリー ザブリスキーで個展をしました。

又、2005年には、ポロック/クラスナー ファウンデーション グラントを受賞、アメリカに来てよかったと、この時、心からそう思いました。

日本での発表は、1989年、東京銀座の村松画廊でした。オーナーの川島良子さんから、「うちでやってみませんか？」と声がかかったのです。渡米して、20年目のことでした。同展では、高松市美術館と大原美術館が大作をコレクションに加えてくださいました。以来、村松画廊での個展は、6回となりました。

香川での発表のチャンスを持つことが極めて困難でしたが、これからの課題として、全力を尽くしたいと思っています。



"Flight Maps" at Gallery MC, New York, 2014



"Planet Earth(Flight Maps)" 2014

今年も9月11日がやってきました。2001年のあの日、私は、広島市現代美術館の委託制作「Life, Love」のための大作、「広島川の制作の真最中でした。

自宅のあるビルの屋上からワールドトレードセンターの悪夢のような出来事を見ながら、自国内に初めて深い傷を追っているアメリカと、嘗て戦争で傷ついた広島を想って複雑な気持ちになりました。

当時私は、高松商工会議所発行の（インフォメーション高松）の海外通信員でしたので、「さよなら世界貿易センタービルディング」と題したレポートと写真をお送りしました。

平成14年1月号 No 504 がそれです。



ところで、今年、ニューヨークでの香川県関係の行事は、これまでに例を見ないほど活発に行われました。

4月1日にジャパン ソサエティーで開かれた「ベネッセ アート サイト直島に見るアート、建築による地域、環境の再成」と題したシンポジウムが開かれました。

福武総一郎さんを中心に、建築家の妹島和代さん、西沢立衛さん、三分一博志さんが出席、アメリカ人が大半の会場は満席となり、瀬戸内国際芸術祭への関心度の高さを目の当たりにしたシンポジウムでした。

又、7月21日には香川県議会議長の辻村修さんを始めとする県議会議員の皆さんと国際課の久米純子さんがブラジル訪問の帰途、ニューヨークに立ち寄られ、香川県人会の皆さんとの懇親会を持たれました。

そして、8月16日から19日、ジェイコブ ジャビツ コンベンション センターで開かれたニューヨーク国際ギフト フェア “NY NOW” に香川県が初出店、中山貢さんを始めとするかがわ産業支援財団の方々と出展者の皆さんが一同となって、かがわブースはキラキラと輝いていました。

なお、16日には、ニューヨーク香川県人会会長の藤田裕之さん他、県人会の皆さんが参加しての交流会が和やかに開かれました。



NY NOW at Jacob Javits Convention Center, NY 2015

このようにイベントを通じて交流の場を持つことによって、香川とニューヨークの文化、産業などがさらにより良く発展して行くものと確信しました。



依田 順子 (よだ じゅんこ) さん

(アーティスト。アメリカ合衆国・ニューヨーク在住。KAGAWAアンバサダーを平成26年4月1日に委嘱。)

徳島県出身。

1957年 香川県高松市上之町に移る 1959年 高松市桜町中学校卒 高松市立第一高等学校卒 武蔵野美術大学造形学部卒 武蔵野美術大学造形専攻科油絵専攻修了 ニューヨークに移住

ニューヨーク、東京、パリ他で個展、グループ展を多数開催

1991年 第6回ホルベイン・スカラシップ奨学者に選ばれる

2001年 広島市現代美術館における委託制作 (「Life」、「Love」)

2005年 「ポロック・クラズナー・ファウンデーション」のグラント賞受賞
パブリック・コレクション

大原美術館、高松市美術館、徳島県立近代美術館、広島市現代美術館、The Essl Collection, Vienna, Austria

☆KAGAWA アンバサダー事業について

香川県の名誉大使として、海外で広く香川を紹介していただいたり、県の活性化のために経済、観光、文化など幅広い分野で、情報提供や提言などをしていただいたりする事業です。

☆KAGAWA アンバサダーからのお便りについて

県民の方々に KAGAWA アンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めていただくことを目的に、世界を舞台に活躍されている KAGAWA アンバサダーの方々から在住国や御自身の活動等について御紹介いただくものです。